

集賛舎の歩み

139年にわたる歴史の中で、社会は幾多の変化の時を迎え

そのたびに新たな変革を迫られてきました。

石版印刷～活版印刷～CTP…。

創業以来の精神を忘れず時代にいち早く対応してきた結果、集賛舎の今があるのです。

主な出来事

1869年(明治2年) 版籍奉還
1871年(明治4年) 廃藩置県
1876年(明治9年) 廃刀令

1889年(明治22年) 大日本帝国憲法公布
1894年(明治27年) 日清戦争勃発
1904年(明治37年) 日露戦争勃発

1914年(大正3年) 第一次世界大戦参戦
1923年(大正12年) 関東大震災
1929年(昭和4年) 世界恐慌
1937年(昭和12年) 日中戦争

1941年(昭和16年) 太平洋戦争
1945年(昭和20年) 終戦
1946年(昭和21年) 日本国憲法公布
1964年(昭和39年) 東京オリンピック大会

1973年(昭和48年) オイルショック
1987年(昭和62年) 国鉄分割民営化

1990年(平成2年) 湾岸戦争

昭和初期の作業風景

当時の印刷現場は殆どが手作業。

レイアウト、文選、製版、印刷…

全てが職人の感覚に

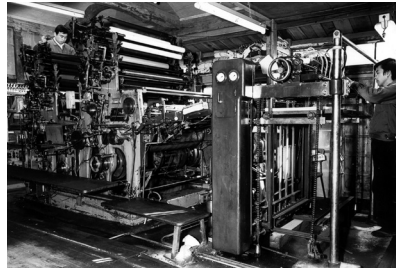
ゆだねられている時代でした。



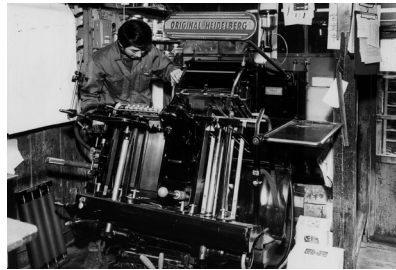
文選場(昭和30年頃)



手差し活版印刷機(昭和初期)



菊全2色オフセット印刷機(昭和30年代)



ハイデル プラテン印刷機(昭和30年代)

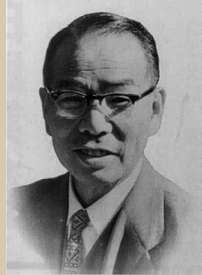


タイプ製版(昭和37年頃)

- 1883年(明治16年)
旧長尾藩士 市野泰孝が
石版印刷を主とした印刷業を創業、
その名を就産舎とした
- 1918年(大正7年)
他の印刷会社を吸収合併、
株式会社集賛舎と改める
資本金 15,000円 とする
- 1938年(昭和13年)
島 作治 が二代目社長として就任
- 1965年(昭和40年)
島 和弘が三代目社長として就任
- 1987年(昭和62年)
館山市山本に新社屋を建設。
資本金 3,000万円に増資
ハイデルベルグ社 MOV(菊半切4色機) 導入
- 1989年(平成元年)
島 正彦が四代目社長として就任
- 1992年(平成4年)
ハイデルベルグ社製 102ZP(菊全判2色両面機) 導入
オサコ製中綴じ製本ライン導入
- 1991年(平成3年)
第1回 出合い寄席開催
- 1997年(平成9年)
千葉支社及び営業本部基盤強化のため、
千葉支社を市内中央部オフィスに設置
- 2001年(平成13年)
千葉支社と千葉工場を統合し、中央区生実町に移転
AGFA製 CTP 導入
XEROX製カラードキュテック導入
- 2003年(平成15年)
島 和弘 勲五等瑞宝章 受勲
- 2006年(平成18年)
プライバシーマークを取得[A190815(01)]
- 2007年(平成19年)
小森社製 LITHRONE 40(L-440)(菊全判4色機) 導入
- 2021年(令和3年)
AGFA製菊半裁 CTP 導入
千葉支社に冊子印刷生産工程構築



初代社長 市野泰孝



二代目社長 島 作治



三代目社長 島 和弘



四代目社長 島 正彦



館山本社



出合い寄席

地域の皆さまとの「出合いの場」を持ちたいとの想いから始めました。毎回、古今亭志ん弥師匠にお願いして、36回を数える会になりました。



千葉支社



AGFA製 CTP



小森社製 LITHRONE 40(L-440)